

（明治三十三年五月八日）第三種郵便物認可（毎月四日十四日廿四日三回發行）

縣報 第六十三號

明治卅五年一月四日

和歌山縣

○縣令

○和歌山縣令第百十五号

和歌山縣立和歌山高等女學校規則左ノ通改正シ明治三十五年四月ヨリ施行ス

明治三十四年十二月二十三日

和歌山縣知事 椿 素一郎

和歌山縣立和歌山高等女學校規則

第一章 總則

第一條 和歌山縣立和歌山高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ本科及技藝專修科ヲ置ク

第二條 本科ノ修業年限ヲ四ケ年トシ技藝專修科ノ修業年限ヲ三ケ年トス

第二章 學科課程及教授時數

第三條 本科ノ學科ハ修身、國語、歷史、地理、數學、理科、圖画、家事、裁縫、音樂、体操トシ隨意科トシテ外國語及教育ヲ加フ其課程左ノ如シ

學科目	學年	時數	每週
修身	第一學年	二	全
	第二學年	二	全
人倫道德ノ要旨作法	第三學年	二	全
	第四學年	二	全

縣報第六十三號

明治三十五年一月四日

第三種郵便物認可

計	教育	外國語當分欠ク	体操	音樂	裁縫	家事	圖画	理科	數學	地理	歷史	國語
二八			三	二	七		一	二	二	三		六
			遊普通體 戲操	單音唱歌	通裁方縫 常縫方服		自在画	植動物	整數、分數、小 數ノ加減乘除	本邦地理	本邦歷史	講讀、作文、 習字
二八			三全	二全	七全		一全	二物	二全上比例	全上	全上	六講讀、作文、 文法、習字
			上	上	上		上	理	比例	上	上	
二八			三全	二全	六全	二	一全	二	二	三	全	五全
			上	上	上	家内ノ食 住	上	化學物	百分比算例	外國地理	外國歷史	上
三〇	二		三全	二全	七全	二	一全	一	二	三	全	五全
	教育ノ原則 教授ノ方法		上	上	上	全上家庭教育 及育兒要旨經 濟看護法	上	人身生理衛生	幾何學初步	全上	外國歷史	上

第四條 技藝專修科ノ學科ハ裁縫科ヲ主トシ外ニ修身、國語、數學、家事、音樂、體操ヲ課ス
其課程左ノ如シ

學科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	每週 時數	內容	每週 時數	內容	每週 時數	內容
修身	二	人倫道德ノ要旨作法	二	全	二	全
國語	三	講讀、作文、習字	三	全	三	講讀、作文
數學	一	筆算、珠算、四則	一	筆算、珠算、度量衡貨幣	一	分數、小數
家事	一	裁縫	一	一次食	三	衣食住家内ノ販賣、家庭教育及育兒要旨、經濟看護法
裁縫	一九	運針、簡單ナル日本服	一八	通常日本服	一七	全
音樂	一	單音唱歌	一	全	一	全
體操	二	普通體操、遊戲	二	全	一	全
計	二八		二八		二八	

第五條 生徒ノ志望ニ依リ作法ノ一部トシテ茶儀生花ヲ授クルコトアルベシ
第六條 教授時數ハ毎日五時間以内トス

第三章 休業日

第七條 年中休業日左ノ如シ

- 一 日曜日
- 二 大祭日祝日
- 三 皇后陛下御誕辰
- 四 學校紀念日
- 五 夏期休業 自七月三十一日
至八月三十一日
- 六 冬期休業 自十二月二十五日
至一月七日
- 七 春期休業 自四月一日
至全月七日

第四章 入學退學等

第八條 生徒ノ入學ハ毎年一回學年ノ始ヨリ二十日以内ニ於テ之ヲ許ス

但欠員アル時ハ學期ノ初ヨリ十日以内ニオイテ臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第九條 願ニヨリ退學セル者一ケ年以内ニ再入學ヲ請フ時ハ事情審査ノ上無試験ニテ原學年以下ノ學級ニ編入スルコトアルベシ

第十條 第一學年級ニ入學セシムベキ者ノ學力檢定ハ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒ヘタル志願者ニ對シテハ其修業證書ニ依リ其他ノ志願者ニ對シテハ試験ニ依ルベシ

高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒ヘタル志願者ハ其他ノ志願者ニ先テ入學ヲ許スベシ但高

等小學校第二學年ノ課程ヲ卒ヘタル志願者ノ數募集人員ニ超過スルトキハ尙試験ニ依リテ入學者ヲ撰拔スベシ

第十一條 第一學年ノ入學試験ハ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ國語算術ニ就キ其他ノ志願者ニ對シテハ尙ホ日本歴史日本地理ヲ加ヘ高等小學校第二學年修業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フベシ

第十二條 第二學年以上ニ入學セシムベキハ相當年齡ニ達シタル者ニ就キ前各學年ノ程度ニ依リ試験ノト之ヲ撰定ス

第十三條 入學志願者ハ左式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スベシ

入學願 (用紙美濃紙)

原籍現住所身分

氏

名

生年月日

右之者今般御校本科(技藝專修科)第何學年級へ入學爲致度候間御許可被成下度同人履歷書相添へ此段相願候也

父兄、後見人又ハ親戚

氏

名印

和歌山縣立和歌山高等女學校校長宛

履歷書 (用紙美濃紙)

族籍

學業

一、尋常小學校

何年何月尋常小學校ニ入り何年何月卒業

一、高等小學校

何年何月高等小學校ニ入り何年何月第何學年修業

一、其他ノ學校

何年何月ヨリ何年何月マデ何所ニ於テ何々修業等

賞罰

一、何年何月何日何ノ廉ニヨリ何ノ賞

(或ハ何ノ罰)ヲ受ク

右之通り相違無之候也

年月日

右氏 名印

第十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ資格ヲ有スル者ヲ正副保証人トシ其連署ヲ以テ在學證書ヲ差出スベシ

但正保証人學校所在地ニ住居スル場合ニ於テハ副保証人ヲ要セズ

正保証人 丁年以上ノ男子ニシテ其父兄後見人若シクハ最近親戚或ハ之ニ準スベキ者一人

副保証人 丁年以上ノ男子ニシテ學校所在地ニ住居シ一家ヲナセル者一人

但學校長ニ於テ保証人ナシ不適當ト認ムル時ハ之ヲ改メシムルコトアルベシ

氏名

生年月日

在學證書 (用紙美濃紙)

印紙

原籍現住所身分

氏名

生年月

右之者今般御校ニ入學御許可相成候ニ付テハ御校規則遵守シ勤學セシムベキハ勿論撰リニ退學等爲致間敷且本人ニ關スル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候仍テ証書差出候也
年月日

原籍現住所身分職業

正保証人 氏

名印

原籍現住所身分職業

副保証人 氏

名印

和歌山縣立和歌山高等女學校校長宛

第十五條 保証人ハ其保証スル生徒ニ關シテハ學校ニ差出テ願届等ニ用フル印ヲ定メ在學

証書ト共ニ其印鑑ヲ差出スベシ

第十六條 保証人轉任若クハ改印シタル時ハ遲滞ナク其旨届出ヅベシ

第十七條 保証人旅行セントスル時ハ相當ノ代理者ヲ立テ届出ヅベシ

第十八條 保証人死亡シ若クハ第十四條ノ資格ヲ失ヒタル時ハ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ在

學証書ヲ差出スベシ

第十九條 生徒ノ住所又ハ戶主等ニ異動アル時ハ速ニ保証人ヨリ届出ヅベシ

第二十條 生徒疾病又ハ止ムヲ得ザル事故ニヨリ退學セントスル時ハ其事由ヲ詳記シ保証

人ヨリ顯出ツベシ

第二十一條 生徒疾病其他ノ事故ニヨリ一週間以上欠席セントスル者ハ日數ヲ豫定シ事由ヲ具シテ保証人ヨリ顯出ツベシ

第二十二條 生徒左ノ各項ノ一ニ觸ル者ハ退學ヲ命ズ

一、何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ引續キ一ケ年以上欠席シタル者

二、正當ノ理由ナクシテ引續キ一ケ月上欠席シタル者

三、出席常ナラザル者

四、學術進歩ノ見込ナキ者

五、保証人其義務ヲ盡サザル者

六、授業料ノ滯納三ヶ月以上ニ及フ者

第二十三條 校則命令ニ違背シ若クハ品行不良等ニシテ生徒ノ本分ヲ誤リタル者ハ其輕重

ニ依リ相當ノ罰ニ處ス

第五章 修業卒業ノ認定及證書

第二十四條 生徒ノ卒業又ハ修業ヲ認定スルハ平常並ニ試験ノ成績ニ依ル

但修身中ノ作法、國語中ノ作文習字、圖畫、裁縫音樂、体操ハ試験ヲ須ヒズ平常ノ成

績ニ依ル

第二十五條 各學科ノ成績ハ最良良可稍可不可ノ五等ニ分テ各科稍可以上平均可以上ヲ以

テ合格トシ以下不合格トス

第二十六條 生徒ノ學業成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査シ別ニ時期ヲ定メテ一時ニ試験ヲ施行セズ

第二十七條 每學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ第一號書式ノ證書ヲ授與シ至リ卒業ノ者ニハ第二號書式ノ證書ヲ授與ス

第二十八條 卒業ノ際在學中ノ成績ヲ調査シ其學術優等ナリト認ムル者ニハ第三號書式ノ證明書ヲ授與ス

第一號書式

修業證書

校印

道廳府縣華士族平民

氏名 生年月

右ハ當校本科(技藝專修科)第何學年ノ課程ヲ修了セリ依テ茲ニ之ヲ証ス

年月日

番號 和歌山縣立和歌山高等女學校

第二號書式

卒業證書

道廳府縣華士族平民

校印 氏名 生年月

右ハ當校所定ノ本科課程(技藝專修科課程)ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ依テ茲ニ之ヲ証ス
年月日

和歌山縣立和歌山高等女學校長位勳爵氏名印

番 號

第三號書式

証 明 書

校 印

本科卒業生 道廳府縣華士族平民

技藝專修科卒業生 氏 名

生 年 月

右ハ當校在學中ノ成績ヲ査定シ其學術優等ナルコトヲ証明ス
年 月 日

和歌山縣立和歌山高等女學校長位勳爵氏名印

第六章 學資及授業料

第二十九條 生徒ノ學資ハ總テ自辨トス

第三十條 授業料ハ本科生ハ一人一ヶ月金壹圓技藝專修科生ハ一人一ヶ月五拾錢トシ毎月

二十日マデニ納附セシム

但納附期日ハ時宜ニ依リ臨時變更スル事アルベシ

第三十一條 學校ニ於テ全一月間休業シタル時ハ其月分ノ授業料ヲ徵收セズ
第三十二條 新ニ入學セシ生徒其月十六日以後ニ係ル分ハ其月分ノ授業料ヲ半額トス

第七章 寄宿舎

第三十三條 生徒修學ノ便ヲ圖リ校内ニ寄宿舎ヲ設ケ

第三十四條 自宅ヨリ通學スル者及確實ト認ムル親戚ニ宿泊スル者ノ外生徒ハ凡テ寄宿スベキ者トス

但學校ノ都合ニヨリ又ハ保證人ノ願ニヨリ他ヘ宿泊セシムルコトアルベシ

第八章 附則

第三十五條 本則實施ニ關シ必要ナル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クベシ
第三十六條 明治三十四年和歌山縣令第二十七號ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is too light to transcribe accurately.)

○和歌山縣令第百十六號

明治三十四年十一月十縣令第百二號炭疽豫防區域中左ノ地域ハ本日限リ解除ス

明治三十四年十二月廿四日

和歌山縣知事

椿

藁一郎

一那賀郡小倉村大字新在家一圓

一海草郡川永村大字川邊字市場ノ内

東 大蓮寺前小路以西

西 小溝以東

南 地堂横小路以北

北 大蓮寺横小路以南

一圓

縣報第六十三號

明治三十四年一月四日

第三種郵便物認可

十四

○和歌山縣令第十七號

東亞同文書院和歌山縣費留學生ニ關スル規程左ノ通相定ム

明治三十四年十二月二十六日

和歌山縣知事

椿 義一 郎

東亞同文書院縣費留學生ニ關スル規程

第一條 留學生ノ定員ヲ二名トス

第二條 留學生タラントスル者ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ知事之ヲ選定ス
一縣内ニ原籍ヲ有シ且居住スルモノ

二身体強健志望堅實ニシテ品行端正ナルモノ

三公私立中學校ヲ卒業シ若クハ之ト同等以上ノ學力アリト認ムルモノ

第三條 留學生ニハ學資トシテ三ヶ年間毎月金貳拾圓ヲ縣費ヨリ給與ス

前項ノ學資金ハ知事ヨリ直ニ東亞同文書院長ニ托シ之ヲ交付スルモノトス

第四條 留學生派遣又ハ卒業歸朝ノ際ハ旅費トシテ片道金四十圓ヲ給與ス

第五條 留學生卒業後ハ十ヶ年間本縣内ニ於ケル教育又ハ貿易等ノ事業ニ關シ知事ノ指命

若クハ承認ヲ受ケタル業務ニ従事スベキモノトス但卒業後五年以上ヲ經過シ功績顯著ナルモノニ限り義務年限ヲ減ズルコトアルベシ

第六條 自己ノ便宜ニ依リ半途退學スル者又ハ疾病ノ故ニアラズシテ退學ヲ命ゼラレタル

者或ハ前條ノ義務ヲ盡ササル者ハ支給ノ學資金ヲ一時ニ償還セシムルモノトス

第七條 留學生ニ選定セラレタル者ハ第一號書式ノ誓約書ニ第二號書式ノ保證書ヲ添ヘ知

事ニ差出スベシ

第八條 保證人ハ縣内在住者ニシテ一家計ヲ立テ相當ノ資産ヲ有スル丁年以上ノ男子ニ限

ル

第一號書式(用紙美濃野紙)

誓約書

私儀東亞同文書院縣費留學生ニ御選定相成候上ハ同院規則確守スベキハ勿論留學生ニ關
スル御縣規程ハ必ズ履行可致依テ誓約書差出候也

族籍身分職業戶主又ハ何某子弟

年月日

氏名 (印)

和歌山縣知事宛

第二號書式(用紙美濃野紙)

保證書

右ノ者東亞同文書院縣費留學生ニ御選定相成候ニ付テハ在學中ハ勿論義務年限中本人一
身上ニ關スル事件ハ拙者ニ於テ渾テ引受可申依テ保證書差出候也

族籍身分職業

年月日(保証人ハ二名以上トス)

氏名 (印)

生年月

和歌山縣知事宛

族籍身分職業

氏

名

印

生年 月

縣報第六十三號

明治三十五年一月四日

第三種郵便物認可

十八

○和歌山縣令第百十八號

明治三十四年十一月十一日 本縣令第百二號炭疽豫防區域中左ノ地域ハ本リ限リ解除ス

明治三十四年十二月二十七日

和歌山縣知事

椿 泰一郎

一海草郡有功村大字六十谷小字西ノ口ノ内

東 箱作往來以西

西 中森千代楠地通以東

南 全人地通リ以北

北 通稱中道以南

一圓

一那賀郡岩出村大字岡田小字中原内 一圓

一全郡山崎村大字畑毛小字西垣内ノ内根來往來以西 一圓

縣報第六十三號

明治三十四年一月四日

第三種郵便物認可

二千

○告 示

○和歌山縣告示第二百九十六號

大坂府及奈良縣下ニ於テ炭疽發生ニ付左ノ通り通知アリタリ

明治三十四年十二月二十五日

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

一府下中河内郡三木木村大字北木下ニ於テ本月十七日午一頭炭疽ニ罹リ全十八日斃死セ
リ

一縣下宇陀郡室生村大字山柏橋詰秀吉飼牛一頭本月十八日炭疽ニ罹リ全日斃死セリ

○和歌山縣告示第二百九十七號

左記狩獵免狀遺失ノ旨届出アリタリ

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

和歌山縣那賀郡龍門村大字荒見
三十番地平民鍛冶職

依 岡 八 郎

乙種二等第三四七號 明治三十四年十一月十一日下付

右明治三十四年十二月廿日居村ヨリ全郡岩出村大字清水迄ノ出獵途中ニ於テ遺失

○和歌山縣告示第二百九十八號

左記ノ道路自今公用ヲ廢止ス

明治三十四年十二月廿六日

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

海草郡岡崎村大字西字西梅ヶ崎續貳百三十六番
一官有舊道敷壹畝歩

○和歌山縣告示第二百九十九號

本年九月本縣告示第百八拾五號和歌山縣物產陳列場ハ本月二十二日ヨリ開場ス
明治三十四年十二月廿一日
和歌山縣知事 椿 素一郎

○和歌山縣告示第三百號

度量衡取締主任ノ證 第二八九號
第二九〇號
但シ日高郡野口村長へ交附ノ分
貳葉

右紛失ノ旨届出ニ依リ無効トス
明治三十四年十二月廿六日

和歌山縣知事 椿 素一郎

○告 諭

○和歌山縣告諭第八號

近來各種ノ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板等ノ物件ニ於テ帝室御用東宮御用、宮
内省御用其ノ他之ニ類スル文字ヲ表記スル者ナキニ非ラサル處皇室ニ關スル文字ノ濫用ニ
關シテハ明治元年三月太政官布告ヲ以テ禁止セラレタルニモ拘ハラズ今日仍ホ之ヲ濫用シ
テ種々ノ物件ニ表記スルガ如キハ管タニ右禁令ノ趣旨ニ違背スルノミナラス洵トニ恐レ多
キ次第ニ付爾今右等ノ心得違無之様注意スヘシ
明治三十四年十二月廿七日
和歌山縣知事 椿 素一郎

明治三十三年
五月八日 第三種郵便物認可